

6. 玄海町バイオマス産業都市構想の概要

佐賀県玄海町、人口 約0.6万人、面積 約0.4万ha

構想の概要

家畜排せつ物をメタン発酵処理し、発酵残渣を再生敷料として利用することで、堆肥の処理先確保やもみ殻高騰に伴う再生敷料の需要に対応するとともに、中長期的には、現在町外で処理している事業系生ごみや下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥をメタン発酵の原料に加えることで、廃棄物系バイオマスの利用を促進する。

1. 将来像

- ① できるだけ化石燃料に頼らない、環境にやさしく持続可能なまち
- ② 農林漁業がさらに振興し、豊かな暮らしが実現するまち
- ③ ごみを減らし、美しい環境が保たれた快適な暮らしのまち

2. 目標(10年後)

廃棄物系バイオマス

家畜排せつ物： 99.7%→バイオガス事業推進により100%を利用
 食品残さ： 4%→バイオガス事業推進により50%を利用
 汚泥： 29.3%→バイオガス事業推進により100%を利用

未利用バイオマス

圃場残さ： 99.96%→バイオガス事業推進により100%を利用
 竹： 0%→敷料や燃料として50%を利用

3. 事業化プロジェクト

- ① 家畜排せつ物バイオガス発電プロジェクト
 - ・家畜排せつ物を原料としたバイオガス発電事業(FIT・1,200kW)
 - ・発酵残渣の固形分は再生敷料として農家へ販売(おが粉の高騰により再生敷料の需要が高まっている)
 - ・消化液は液肥として農家に供給
- ② 事業系生ごみ、下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥活用プロジェクト
 - ・現在町外処理施設へ搬入している事業系生ごみ、下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥を、①のメタン発酵の原料として投入する。

4. 地域波及効果

経済波及効果：8.92億円、新規雇用創出効果：3人
 化石燃料代替量：電気 6,500MWh/年
 化石燃料代替費(電力及びA重油換算)：1.3億円/年
 温室効果ガス(CO₂)排出削減量：3,380 t-CO₂/年
 廃棄物処理量の削減：2,286 t/年、0.3億円/年

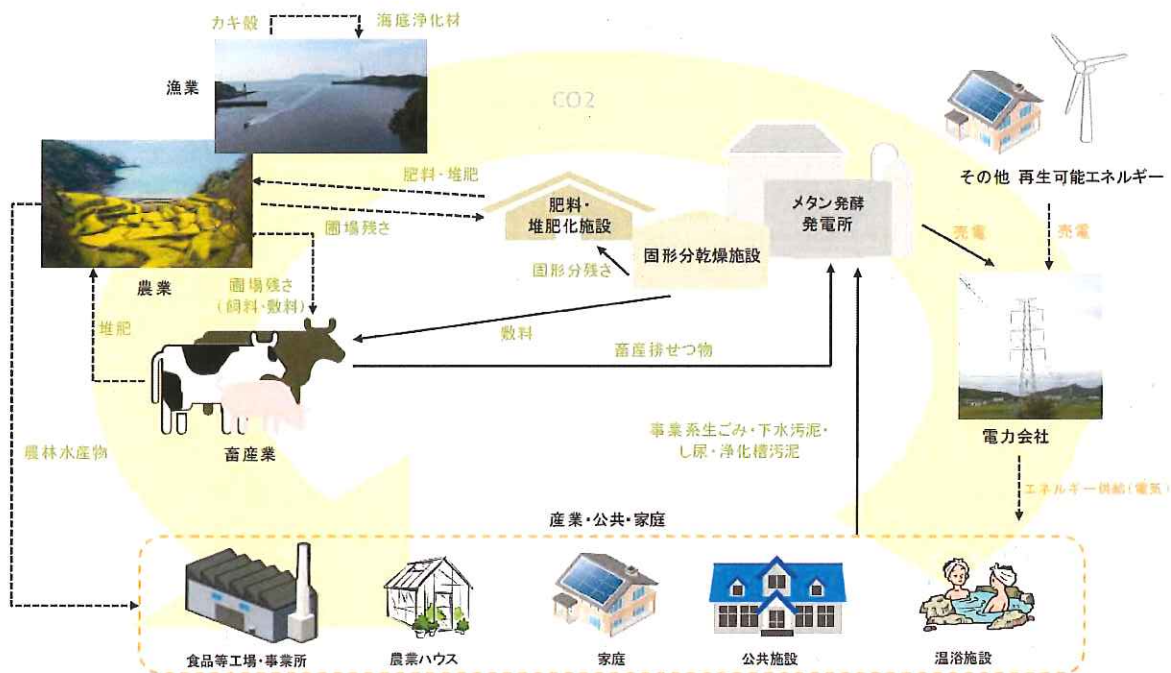
5. 実施体制

- ・町が事務局となり「玄海町バイオマス産業都市構想推進協議会(仮称)」を設置、構想全体の進捗管理や各種調整、HP等情報発信を行う。
- ・各プロジェクトの実施や進捗管理は実施主体が中心となって行い、状況に応じて協議会に報告を行い、情報の共有、連携の強化を図る。

6. その他

- ・町は2001年度から生ごみコンポスト機の購入助成を実施し、生ごみの減量・活用の取り組みを進めている。
 - ・耕作放棄地に密生する竹の利用については、賦存量と利用可能量を調査し、町内の新たな資源として敷料や燃料等に活用することを検討していく。
- <主な関連計画>
- ・第5次玄海町総合計画(2016-2025)
 - ・玄海町地域新エネルギービジョン(2005-2015)
 - ・玄海町まち・ひと・しごと創成総合戦略(2015-2019)

玄海町バイオマス産業都市構想 バイオマス活用イメージ



自然と共生し 笑顔はぐくむ玄海町

→ 実線: 事業化プロジェクトに係る流れ
 - - - 点線: 既存の取組に係る流れ